

三角西港における小学生を対象とした ワークショップの成果に関する考察

田中 尚人¹

¹熊本大学 政策創造研究教育センター 准教授

三角西港は熊本県宇城市三角町に位置し、『明治の三大築港』の一つに数えられる土木遺産であり、平成27年7月『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』の資産として、ユネスコの世界文化遺産に登録された。本年度、筆者らは宇城市立三角小学校の6年生、35名を対象としたWSを3回実施した。本研究では、文化的景観保全に対する理解を基盤としたワークショップを通じて、児童たちが獲得したシビックプライドについて定性的に分析することを目的とする。具体的には、ワークショップは、①三角西港に関する基礎知識の獲得、②三角西港におけるまち歩き、③三角西港のガイドブックづくり、の3回を授業時間中に実施した。

1. 研究の背景と目的

(1) 三角西港の概要と研究の背景

三角西港は、熊本県宇城市三角町に位置し、お雇い外国人技師者ムルデルの設計・指導により、1887（明治20）年8月に開港した『明治の三大築港』の一つに数えられる土木遺産である。三角西港は、古来より風よけの港して発達し、写真-1に示した三角の瀬戸に整備された。明治三大築港の一つとして知られ、石造護岸（写真-2）が有名な三角西港は、築港前は三角本町を中心としたひなびた漁村であったが、築港とともに近代的な都市計画された港湾都市となり、その後保養都市となった。現在は、一区／二区からなり、両区合わせて約150世帯、約320人の人口（高齢化率42.6%）である。



写真-1 三角の瀬戸遠景

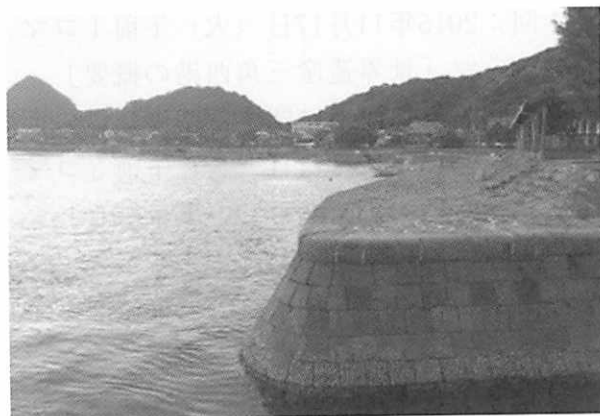


写真-2 三角西港石積護岸

平成27年7月5日、ドイツのボンで開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会において、熊本市宇城市三角町に立地する三角西港が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、

石炭産業」の資産の一部として、ユネスコの世界文化遺産に登録されることが勧告された。「明治日本の産業革命遺産」は、19世紀後半より20世紀初頭にかけて、幕末から明治期の日本における重工業分野（製鉄、造船、石炭産業）の急速な産業化の道程を、時間軸に沿って証言する一連の産業遺産（現役産業施設を含む）により構成されている。現在、世界遺産を含む文化財保全の分野では、「有形、無形の文化財と地域の暮らしの共生」¹⁾が重要な懸案となっている。

筆者らは、平成25年度より、この三角西港を核とする港町、三角浦などを含む「三角の瀬戸」の文化的景観保全に関わっており、これまで宇城市や熊本県と協働し、地域住民とまちづくりワークショップ（以下、WSと略）を実践してきた。本年度は、この一環として将来のまちづくりの担い手となる、三角西港を「ふるさと」とする宇城市立三角小学校の6年生、35名を対象とした「私たちのふるさと、三角西港を未来に伝える」WSを計3回実施した。このWSは、宇城市教育部世界遺産推進室、株式会社エスティ環境設計研究所と共同で実施した。

(2) 研究の目的と手法

本研究では、三角西港における文化的景観保全に対する理解を基盤としたワークショップを通じて、三角小学校の児童たちが獲得したシビックプライドについて定性的に分析することを目的とする。本研究では、シビックプライドを、参考文献^{2) 3)}などに基づき「市民が地域社会や環境に対して持つ自負や愛着、そしてそれらをより佳くする能動的な参加の精神」と定義する。

文化的景観とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第二条第1項第五号）」と定義され、その要件としては、①歴史、②自然環境、③生活・生業、が挙げられる。これらの要件の固有性を、総体と成立させている、地域アイデンティティの拠り所となる風景生成メカニズムを文化財とするものである。筆者らは、文化的景観保全を持続可能な地域づくりであると認識し、研究及び実践を行ってきた。

具体的には、ワークショップは、以下の3回開催した。

第1回：2015年11月17日（火）午前1コマ（写真－3）

テーマ「世界遺産三角西港の概要」

内容：三角西港に関する基礎知識の獲得

第2回：2015年12月11日（金）午前3コマ

テーマ「三角西港らしい風景探し」

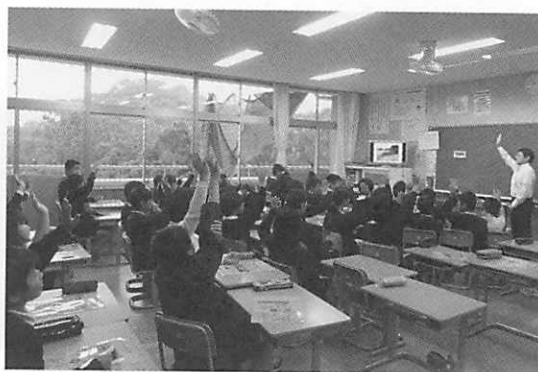
内容：三角西港におけるまち歩き

第3回：2016年1月12日（火）午後2コマ

テーマ：「三角西港のガイドブックづくり」

内容：三角西港のガイドブックづくり

※第1回は、宇城市教育委員会実施のため省略。



写真－3 授業風景

2. 第2回ワークショップの運営と学び

(1) WSの概要

第2回のWSは、「三角西港らしい風景探し」と題し、5～6人を班に分け、班ごとに、三角西港の主要観光ルート60分程度歩き、「三角西港らしい」風景を探してデジカメに納め、ふりかえりの時間で、個人で「三角西港らしい」風景を選び、班ごとに「三角西港らしさ」とは何か、キャッチフレーズを考えてもらった。

8:30 スタッフ三角西港集合、浦島屋2階設営

8:45 三角小6年生(35名)、引率教員、バスにて三角小を出発(所要15分)

9:00 三角小6年生、浦島屋到着

まち歩き講話(15分) @浦島屋2階 講師:田中尚人(熊本大学)

特異点の説明。写真の撮り方の説明。

9:15 三角西港らしい風景探し(60分)

- ・班編成は、小学校にお願い6班(6人×5班、5人班1つ)各班にサポート
- ・班(6名程度)ごとに三角西港好きな風景探し;各班に赤いデジタルカメラ
- ・下記①～⑦(写真-4)をプロットした簡易まち歩きマップ(図-1)に沿って、班ごとに行動

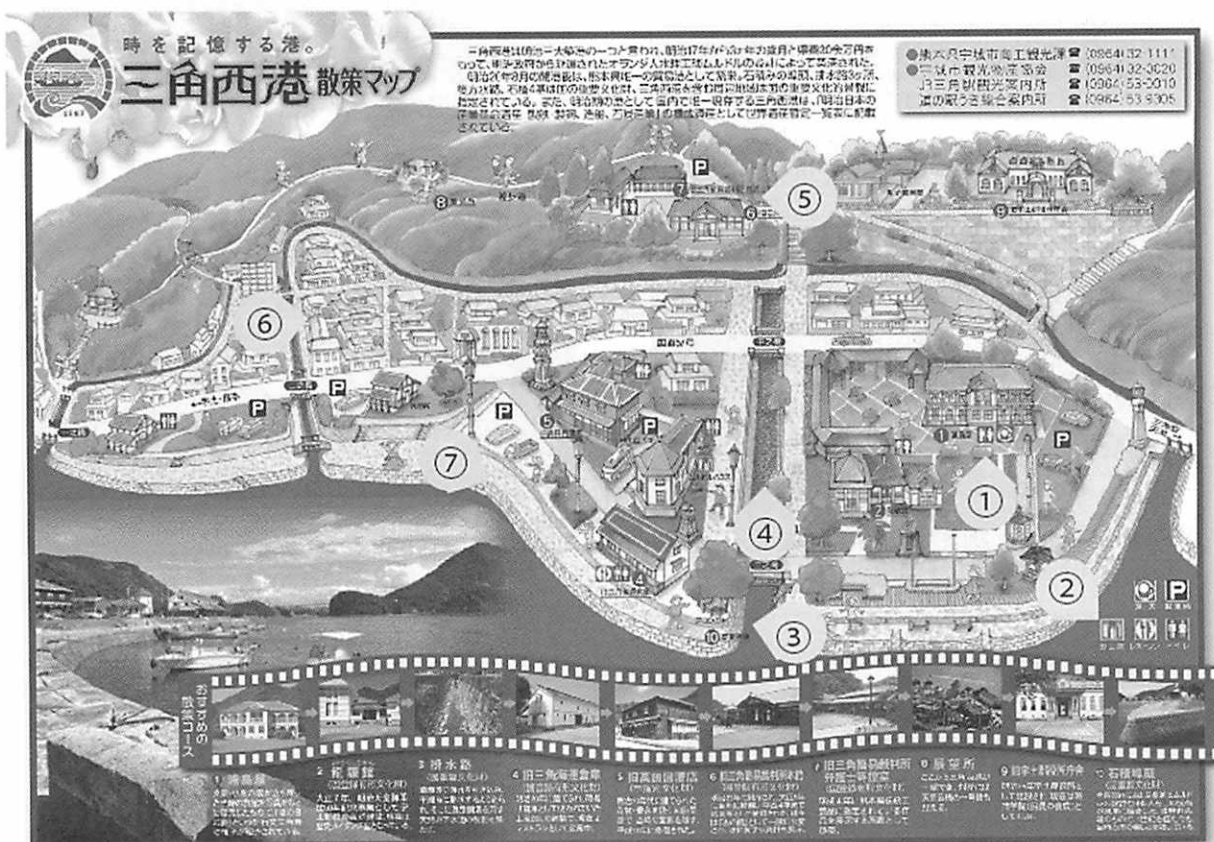
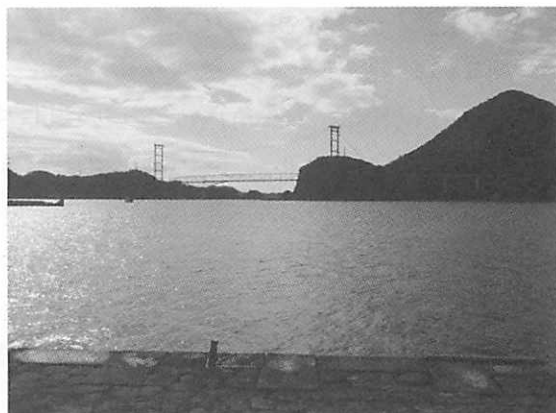


図-1 三角西港の簡易まち歩きマップ



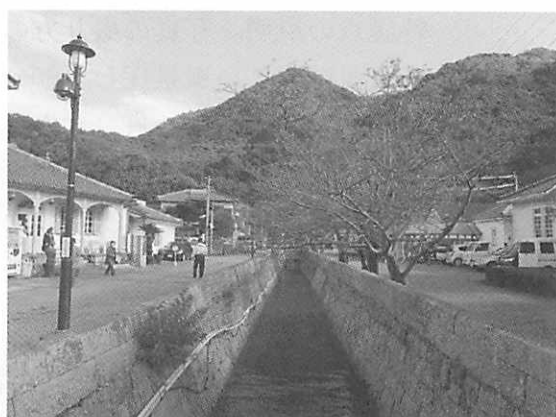
①浦島屋と後背山 明治三大築港



②天門橋 天草五橋 三角ノ瀬戸



③旧三角海運倉庫 アコウの木



④排水路 都市計画 衛生技術



⑤旧三角簡易裁判所 港湾都市



⑥三角西港集会所 人々の暮らし



⑦国指定重要文化財 石積み護岸

写真一 4 ①～⑦三角西港の特異点候補群

(2) まち歩き の 注意 点

- ・リーダーは、カメラを管理し、誰かが特異点らしきものを見つけたら、班員にカメラを渡し、撮影させる。※誰が、どこで写真を撮ったのか、記録しておく。
- ・班員それぞれが、三角西港の特異点（もっとも三角西港らしい）と思うポイントを探す。
①～⑦のチェックポイントを含んでも構わないが、班の中では重複のないようにしたい。
- ・①～⑦をチェックポイントでは、必ず班員の誰かが写真を撮る。
- ・チェックポイント以外でも、誰かが特異点の可能性を示したら、撮影させる。
- ・60分という時間制約を考えながら、できるだけ、班員の希望に沿う。
- ・出発前に、それぞれの狙いや、班で作戦を立てるのもよいだろう。

【振り返り】

- ・班ごとに、デジカメで撮った写真を参考に、車座になって話し合う。
- ・浦島屋2階にはPCを設置し、一部プロジェクターにも繋げて、議論しやすくする。
- ・各班員の特異点を示しながら、重複のないように、班として班員の数だけの写真を選定する。
- ・6枚もしくは5枚の三角西港らしい写真が選定できたら、その写真セットのストーリーを考え 写真集>ガイドブックのタイトル、を付ける。

3. 第3回ワークショップの運営と学び

(1) WS の 概要

第3回のWSは、「三角西港のガイドブックづくり」と題し、第2回で班ごとに、三角西港の主要観光ルートを歩いて探した「三角西港らしい」風景を、各自がポスター（A3）にして、6枚（5枚）を並べて、物語のあるガイドブック（紙芝居風）を、班で一つ作る。各班の「三角西港らしさ」

- 1班：昔の人の想いが詰まって完成した三角西港
 - 2班：歴史がある三角西港
 - 3班：自然と触れあえる三角西港
 - 4班：歴史ある石垣や建造物と美しい景色
 - 5班：三角西港の恵る水
 - 6班：日本でここだけの水と緑と港と歴史ある建物がある
- 13:30 スタッフ三角小学校集合
14:05～14:50 ガイドブックづくり（写真ー5）

- ①田中が概要説明 PPT使用
- ②各班で考えた「三角西港らしさ」を振り返り
- ③各自が描いた場所を、A3のマップにプロットし、どういうコースがいいか考え、マップにコースを記入する。
- ④そのコースを歩くと、どんな「三角西港らしさ」が味わえるのか、物語をつくってみる。
お話でもいいし、みんなが歩いた時の感想でもいい、とにかくスタートして、ゴールするまで、歩きながら考えたことを、作文してみる。
- ⑤各自が選んだ風景に「キャッチフレーズ」を考え、ポスターに書き入れ、ポスターを完成させる。

14:50～15:00; 休憩

15:00～15:45 ガイドブックの発表 (写真-6)

①発表練習 5分

②一人ずつ順番に自分のポスターまでの物語を発表する。

各班 5分×6 計30分

③振り返り 10分



写真-5 ガイドブック作成時の風景



写真-6 ガイドブックの発表時の風景

(2) ワークショップの成果 (写真-7)

ここでは、5班「三角西港の恵る水」を例示する。

5班「三角西港の恵る水」

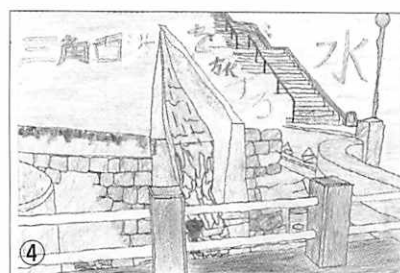
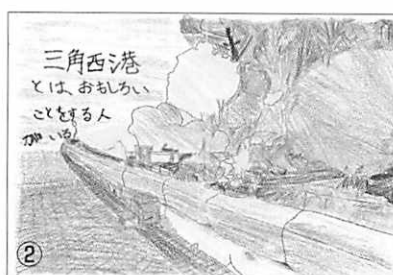
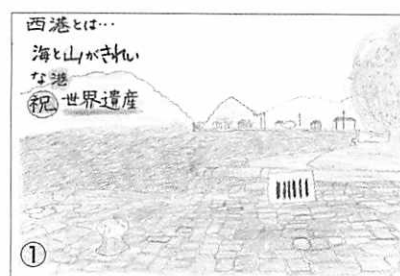


写真-7 5班の観光案内ガイドブック

- ① 岩本くん 三角西港は景色がきれいだと思います。山が季節の変わり目を教えてくれるように紅葉がだんだん染まっていき自然の豊かさが季節ごとに変わっていくから。季節がめぐる三角西港へ、観光客に来て欲しいから、みなさんも来てください。
- ② 井芹さん ここは海と山がきれいな港。この海は西港の自然の山から流れてきたものです。三角町の人々はこの西港を大切にしています。だから、三角西港はいつもきれいで、とても多くの観光客がおとずれています。
- ③ 植田さん この風景を選んだ理由は、こんなにおもしろいことをする人がいるんだなと感じたからです。町の人たちは橋を大事にしているんだな、と思った。この写真を見て、私はこのことした（橋をかけた）人はすごいと思った。みなさんも見に来て下さい。
- ④ 宮川くん ここでは新天門橋の建設が見え、そして太陽からのあたたかい光が海に射し、輝く大海となるこの海に何度でもいから多くの人に見ていやされてほしいと思いました。ここは、海と山そして新しく作られていく物の風景が見える三角西港を大変実感できる場所なので。ぼくはこの光景を絵にしました。ぜひ見に来て下さい。
- ⑤ 阿曾田くん 山から流れてくる水。まるで滝のように強く流れていました。まわりの石垣がとてもきれいだったし、階段も歴史を感じるものでした。これから水は西港を巡っていく。

4. シビックプライド醸成に対する文化的景観保全の可能性

本年度は、三角小学校の児童たちの三角西港に対する地域学習を参与観察することで、「文化的景観保全のシビックプライド醸成に関する可能性」をまとめた。

① まち歩きにより地域特性の把握

「まち歩きは、まちづくり」と言われるほど、「まち歩き」はまちづくりと親和性がある。誰にでもできる、まちづくりの基礎たる所以であろう。小学生でも参加することができ、地域特性を理解するよい機会となった。

② 誰かとともにつくる

今回のWSでは、各班5～6人となるような班をつくり、ガイドブック作成という直接課題を与えた。まち歩きでは、各自個人の特異点を獲得するとともに、班全員で話し合っ、「三角西港と言えば〇〇」というようなテーマを決定してもらった。

③ 物語を自分で語る

地域の特異点を各人ポスター化し、それらを連ねてガイドブックを製作したが、班のテーマに沿った一連の物語を、各人が自分の物語ることが、地域学習としてこのワークショップを実践した価値であると思われる。

謝辞：

本研究には、様々な方々にご協力頂きました。三角小学校校長先生をはじめ教諭の先生方、三角西港の地域住民の皆様、特にともにワークショップに参加した、宇城市教育部世界遺産推進室の松村氏、藤川氏、(株) エスティ環境設計の赤星氏、豊崎氏、そしてともに運営に携わった熊本大学工学部社会環境工学科地域風土計画研究室の学生諸君には、たいへんお世話になりました。記して感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 松浦晃一郎, 世界遺産ユネスコ事務局長は訴える, 講談社, 2008, 6.
- 2) 都市生活研究局 (著)・伊藤香織・紫牟田伸子 (監修), シビックプライドー都市のコミュニケーションをデザインする, 読売広告社, 2008, 11.
- 3) 伊藤香織+紫牟田伸子 (監修)・シビックプライド研究会 (編著), シビックプライド2【国内編】ー都市と市民のかかわりをデザインする, 読売広告社, 2015, 9.
- 4) 「まち歩き」をしかけるコミュニティ・ツーリズムの手ほどき, 茶谷幸治, 学芸出版社, 2012, 8.
- 5) フットパスによるまちづくり地域の小径を楽しみながら歩く, 神谷由紀子編著, 水曜社, 2014, 5.

STUDY ON THE MANAGEMENT AND ANALYSIS OF WORKSHOP FOR MISUMI ELEMENTARY SCHOOL ABOUT MISUMI-NISHI PORT

Naoto TANAKA

The Misumi-Nishi port is located in Misumi town, Uki city, Kumamoto prefecture. This old stone port is one of “Meiji three important port” and was selected as the UNESCO’s world heritage “Sites of Japan’s Meiji Industrial Revolution: Iron and Steel, Shipbuilding and Coal Mining”. In this year, the authors carried out workshops for preservation of cultural landscape and community development with 35 students who are sixth grader of Misumi Elementary School, three times. In this study, it is aimed to analyze qualitatively about the civic pride that children acquired through the workshop which assumed understanding for the cultural landscape maintenance. The theme of workshop are i) Acquisition of the basic knowledge about the Misumi-Nishi port, ii) Town walk (Machi-aruki) survey in the Misumi-Nishi port and iii) Making a guidebook of the Misumi-Nishi port.